

実行委員長ごあいさつ

しみん基金・KOBEごあいさつ

震災後4年目1999年に始まったこうべiウォークは、交通規制のため2002年の第4回から有志参加型に切り替えたが、6年前の2012年から東北の仲間も加わって、広く一般の方々と共に歩く形を再開し、今回で合計20回目を迎える。皆で歩いて寄付するというこのウォークのアイデアは、神戸復興塾のサンフランシスコ・エイズウォーク模倣のお土産である。

iウォークの経路は、神戸の伝統的な西部市街地の下町を辿っている。震災のため、古いまちの面影は希薄になったが、住民の絆は消えていない。まちの復興はひとの復興だという貴重な教訓を、是非、この機会に確かめていただきたい。

2016年4月の熊本地震被災からの復興も途についたところ、一昨年の糸魚川大火も復旧復興はこれから。神戸からの支援・交流も、23年前の大震災経験とその原点に、

こうべiウォーク2018実行委員会
実行委員長 小林 郁雄

「こうべiウォーク2018」へご参加頂き誠にありがとうございます。

「しみん基金・KOBE」は、23年前の阪神・淡路大震災からの復興のプロセスにおける教訓から、市民による自発的な助け合い活動を市民自らが支える日本初の市民ファンドとして誕生しました。以来18年間で延べ184団体に総額約6,457万円を助成し、地域における支え合いの連鎖を深み出してきました。これからも、「絆」を創り繋いでいくことが、当基金の使命と考えています。頂きました募金は、経費を除いて当基金へ寄付され、毎年実施している助成事業を通じて、様々な分野の市民活動団体へ助成させていただきます。

今後とも、何卒ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

認定特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ
理事長 戎 正晴

- ⑩せせらぎ…まちづくり協議会の提案を受けて整備を進めてきたもので、高取山の湧水を利用している。せせらぎの流れの歩道にはベンチを設置しており、市民が集う憩いの場となっている。
- ⑪シューズプラザ①…震災から長田のケミカルシューズ産業の復興と靴のまちがたの活性化を日指し、『シューズの元気は、神戸の元気だ!』をキャッチコピーに誕生。各種シューズ展や企画展を実施している。
- ⑫アジアギャザリー神戸…アジア雑貨の店が集まる商業ビル。約8千人のアジア系外国人が住む長田で、アジアとの共生をテーマにした中核施設として2000年7月にオープンした。
- ⑬水笠通公園…地域の防災公園(長田駅北地区震災復興土地区画整理事業)としての役割を担い、「100t級防火水槽」が整備され、苦難の道りを次代に伝えるために「震災復興の碑」が建立された。
- ⑭新長田駅北地区復興地区…震災前は、商業・業務施設やケミカルシューズ(靴後急速に進展し、靴底、楕円、靴紐穴などが、地域内の分業でなされていた。)等の工場と併在する形で狭小住宅等が立地する住商工混在地域であったが、今回の地震で約8割の建物が大きな被害を受けた。震災後は、そうした分業体制も弱体化したが、今も靴紐の穴にとめる「ハトメ」の看板や、裁断、底をつくる紳士靴の工場などが残っており、自動車の下請けなど多様な仕事を請けている。東に行くくと右手にアシックス(青い建物)も見かける。

①の場所は、
T1が利用できます。



- ①大園公園…震災による大園の延焼を防ぎ、地区の人々の避難所となった。倒壊した鳥居の石を使った記念像、震災直後の街の様子をステンレス板のプレートに焼付けた「協働のモニュメント」、復興の基準点がある。
- ②復興東区画整理地区…震災前は、商店街と駅前長屋等の利便性の高い住宅地だったが、今回の地震ではほぼすべての建物が焼失し大きな被害を受けた。
- ③カトリックたけり教会①…多くのボランティアの拠点となった教会。震災で焼失したが、2007年4月に再建された。「ペンパードームたけり」は台湾に移設された。NPO法人たけりコミュニティセンターが多文化共生の拠点となり多くのNPOが活動している。
- ④海運双子池公園…復興区画整理事業の中ではもっとも早く開園した公園。地域住民が主体となって計画案をとりまとめた。
- ⑤野田北まちづくり協議会…1999年3月の「コミュニティ宣言」後、まちづくりの根幹をハードからソフトへ移行し、地域ネットワーク組織「野田北ふるさとネット」を創設。(日にみえる)活動と(と)づくり(仲間づくり・生活づくり)の思想で(分)かり(ま)ちづくりを日指している。
- ⑥若松公園…震災復興区画整理事業で整備された街区公園。住民の意見で道路を挟んで2つの公園が隣接する。道路を閉鎖すると一体化して大きく使える。結果に防災訓練が行われ、地域の防災拠点となっている。
- ⑦日吉町ポケットパーク「あわせの地蔵」…防災公園にある地蔵堂に、震災による大園で黒焦げとなった2体の石地蔵と、仏教ボランティア大園から寄贈された木彫りの「あわせの地蔵」がお祭りされている。
- ⑧若松公園と鉄人28号…1次項の新長田駅南再開発事業として、防災拠点とするために若松公園が大きく整備されている。公園内には、横山光輝氏の代表作の一つである「鉄人28号」が、体長18mという超ビッグサイズの鋼鉄製モニュメントとして2009年9月に設置された。
- ⑨新長田駅南再開発地区…震災により甚大な被害を受けた市街地の復興と防災公園を中心とした防災拠点の構築、地域の活性化や副都心にふさわしい都市機能の整備を図るために実施された約8割が完成。未入居の商店が残っている。
- ⑩「鎮魂と復興のベンチ(神戸の壁)」…若松町の公設市場の防火壁は、神戸大空襲と大震災の大災に耐え、歴史の証人として「神戸の壁」と呼ばれ震災の象徴となった。再開発事業で移転が決まり、地中の基礎部分が椅子の形にデザインされ、「アスタくにつか」の地下通路に展示されている。
- ⑪大正新商店街…9割の店が全壊し壊滅的な被害を受けた。モダンな商店街として再建され、大正新商店街らしい人情あふれるイベントが各種開催されている。大正時代の生活空間である土間と店間を再現した「大正ハイカラ進歩住事亭」が開業された。

- ⑫新渡川…震災後、多くのボランティアグループが川沿い公園に拠点を置き活動した。その後、2度におたつて川が氾濫したが、2000年に新渡川トンネルが改築された。
- ⑬御書東・西区画整理地区…震災前は駅前長屋が残り市場・商店街や家内工業を中心とした中小規模の工場が立地する利便性の高い住宅地だったが地震で8~9割の建物が大きな被害を受けた。
- ⑭古民家を移築した集会所…香住町(現香美町)に建てられていた古民家を移築して作られた御書東5-6-7丁目自治会集会所。御書東地区の住民たちの交流を深める場となっている。
- ⑮御書南公園…震災時、大園のひろがりを防止し、公園内に避難した人を大災から守ったクスノキがある。震災時は10mあったが、焼けた木の上部分を切り取って8~8.5mとなっている。
- ⑯御書北公園…地域の方で整備した公園で、この地域の120人が亡くなった場所を示す地図が刻まれている「鎮魂」のモニュメントが設置され、焼け残った電信柱が保存されている。
- ⑰共同住宅「みくら5」①…12件が集まって建てた共同住宅。1階の地元企業の協力による「地域コミュニティスペース・プラザ5」を拠点に、まち・コミュニケーションはまちづくり活動を展開している。
- ⑱地域人材支援センター(旧二葉小学校)①…1929年に建設され、戦災・震災を乗り越えた地域のシンボルである旧二葉小学校が、NPO法人ふたばを指定管理者として、市民の地域活動への参加支援や地域活性化を担う人材育成の拠点として活用されている。震災関連の展示や神戸の古い写真アーカイブもある。
- ⑲震災ミュージアム…震災で発生した暖かい助け合いの心をいつまでもとどめ、防災知識の普及啓発に努める場所として、また震災の記憶・体験・教訓を伝える拠点として整備された。
- ⑳KOBE 鉄人三國志ガヤラリー…観光客に街を回遊してもらおうと2009年12月にオープン。鉄人28号の製作映像の上映や、三国志に登場する軍師・諸葛孔明の等身大オブジェを展示している。
- ㉑六間道商店街…かつては神戸有数の繁華街だったが、周辺企業が撤退し大震災もあって店舗が減少した。「六間道お百度マイル」の取り組みや、横山光輝氏(「鉄人28号」の作者)の偉業を発信する常設展示会場「六間道なごみサロン」、三国志をテーマにした新居所「魏武帝廟」がある。
- ㉒丸五市場①…80年以上の歴史を誇り、伝統の仕入や加工・販売技術を持つ、こだわり専門店が多い。アジア系食品や物産を扱う店もあり、他の市場にない楽しい買い物の場だと評されている。昔ながらの下町の人情と賑わいが残る市場。
- ㉓本町商店街…震災で多くの店舗が倒壊したが、「ビッグハート」をシンボルとして、ふれあふコンサートや長田こどもまつり、陶芸教室・絵付け教室などのイベントを多数実施している。修学旅行生対象の絵紙教室も好評。
- ㉔神戸協同病院①…震災では献身的に夜中まで診療にあたり、震災後の復興には地域住民と一緒にまちづくりに参加してきた。地域から頼られる存在になることを理念として、地域住民とコミュニケーションをとり、病院という枠を超えて地域のまちづくりに力を入れている。